





巨大な「バイオ研究所」のバイオ事故、今どうなっているの？

●上の写真と図面から説明しましょう

2011年11月30日未明に起きた武田薬品湘南研究所の事故発生現場は、写真右から2棟目の研究実験棟(10階建て)と推定され、建屋の中には30を超える「流し」があって、「流し」は全て配管で1階に在る実験廃液タンクに繋がっています。

写真中央にはめ込みをした図は市民作成の模式図で、研究所自体は未だに事故を起した施設の詳細を明らかにしていません。

当会は、この施設が法令違反の危険な施設であり、使用中止すべきであることを指摘して来ました。

●研究所の対応は何であったか

研究所は、施設が法令違反であるか否かには一切触れず原因はヒューマン・エラーであったことのみ限定し早々に対策を決定しました。次に、住民らの安心を得るために研究所全体に渡り1年近くをかけて第三者機関に安全審査を依頼するとの方針を出し、住民および鎌倉・藤沢両市の市長宛に通知しました。

しかし「外部監査にゆだねる」という事が、客観的で公正な評価が成され安心につながるであろうという予測と違い、逆な結果となりました。

「…武田薬品としても、施設の運用や施設自体の見直しを行っています」という理由で、事故に関する質問への返答や情報は

皆保留される状況が生じ、1年以上になる今も続いています。

本来、どの様な事業所にしろ「法令違反の施設を使っている」と言われたら、直ちに反論なり言い訳をするのが普通であろう。しかし武田薬品湘南研究所は、今日まで当会の指摘には取り合わないで来たし「審査結果」に問題はないと報じている。

●第三者機関の安全審査が済んで半年が過ぎたが・・・

実際には「第三者による安全審査」は昨年秋に終了し、ことし1月には研究所から300m以内の自治会・町内会の代表を中心に研究所と行政職員が参加する「連絡会」で外部調査結果は報告されていました。しかしその内容は「議事概要」として参加3者の文書による合意が成立するまでは秘匿事項とされ、2月市議会といえども「報告事項無し」との環境部報告により市議委員にさえ知らされませんでした。議会での議論は6月議会になる、とまで言われています。

それでも、「連絡会」から約1ヶ月後になって、「安全審査結果」は研究所と鎌倉市のHPに発表されました。説明に使われたとして公開された資料とはパワー・ポイントの十数枚であり、根拠も法令の引用も無くとても審査結果と呼べるものではありません。バイオ事故についても1年前発表の「事故報告」を再認しただけであった。